

オランウータン

中野
劇団

オランウータン

作・中野 守 (中野劇団)

登場人物

森野

従業員A

従業員B

医者

隣の客数名

某旅館の一室。森野が泊まっている。

森野 ……最悪だ。何なんだこの旅館。

森野、フロントに電話を掛ける。

森野

すいません。お風呂のお湯が、温かくならないんですけど。ちょっと見てもらえないですか。……（通じていない様子）あれ？ もしもし？ はい。もしもし？ ……え？ いやあの、こっちは聞こえてるんですけど。もしもし？ ……あれ？ 聞こえてますか？ ……切れた。

森野、内線電話を切る。

森野

……通じたのかな。まあいいや。

森野、足と腰の痛みに顔を歪める。

森野

痛ててて。早く風呂に入りたかったのにな。

森野、床に釘を見つける。

森野 ……釘だ。……何なんだこの旅館。

従 A 失礼します。

森野 早。どうぞ。随分早いな。

従 A お布団敷きに来、うわ！

部屋に入った途端仰天する従業員 A。どうして驚かされているのかわからない森野。

森野 ……？ あの、風呂のお湯が全然温かくないんです。

従 A 嘘……。

森野 え？ いえあの今フロントに電話したんだけど、聞いてないかな
……。

部屋を見回す従業員 A。

従A 何これ？

二人、ストップモーション。

声 (ピンポンパンポン) ただ今、従業員には目の前の男がオランウー

タンに見えております。

再び動き出す。

従A 何これえ!?

森野 ちよつと見てもらえるかな？

森野から一定の距離をとる従業員A。

従A (奥の部屋にいるであろうオランウータンの主人に聞こえるよう

に) お布団敷きにきましたー。

森野

わかってるよ。……それでさっきから、電話も調子が悪いみたい
 なんだけど。相手の声は聞こえてるんだけどね。こっちの声が
 ……。

従 A 何でエ（おるの）？

いやあの、最初から……。かけようと思ったら……。もう故障し
 てて。

従 A うーわ、ありえねー。

……全然申し訳なさがないよね。いや実際おかしいんだよ。

従 A マジありえねー。

掛けないといけない所があつてさ……。

従 A 何これ、すっげえシユールなんだけど。

森野 聞いてって！

従 A ありえねー。

何なんだねさっきから！ありえねーありえねーって！ ありえな
 いのは君の態度じゃないか！ ……携帯の電池が切れて充電器も

忘れてしまったから、その電話を使いたいんだよ。ちょっと見てくれないか。

間。

従 A ……めっちゃ見てる。
森野 見てって。

従業員 A に近づこうとして、足と腰が痛くて限りなくオランウータンの歩き方に近くなってしまう森野。

従 A うわあああ！
森野 ……。
従 A 怖わあ……。
森野 ?
従 A 忘れ物？

森野

は？

従 A

んなわけねえよなあ。えー？ まあ大丈夫だからいるんだろ？

森野

うわあ、スゲえ毛抜けてそうだなあ。

従 A

ほっといてくれ……。

森野

掃除大変だな。

従 A

何なんだ君！ 客に対して。早く電話しないといけないんだ。

森野

うわ！ シッ！ シッ！

間。

森野

……何かおかしいね。俺が何かに見えているんだろうか。君、俺のことどう見えてるんだ。

従 A

こっちが警戒するからダメなのかな。

森野

うん、まず、人の話聞こう。

従業員 A、手を差し出す。

従 A あんまり人見知りしないのかな。

森野 あの……。取りあえず、電話直してくれるかな？

従業員 A、電話をかける。

従 A あ、タダシです。

森野 え？ 使えるの？

従 A 今 601 号室に来てるんですけど、ハッ！

森野が近づくと咄嗟に身構える従業員 A。

従 A ……誰かこっちによこしてくれますか。……はい。ちょっと珍客が。

森野 珍客？

従 A ……取りあえず来て、見てもらったらわかるんで。……はい。

従業員A、電話を切る。

森野 ええ？ ……電話使えるんだ。ええ？

電話の裏を覗き込んだりして調べる森野。

従業員A 電話に興味を持ちました。

森野 ……。

森野、受話器を取る。

従業員A 取った。かしこつ。

森野 は？

従業員A (それは) でん・わ。 ……でん・わ。

森野 ?

従業員A (幼児に言うように) 電話したいの？ 電話するの？ あそつ。

森野 何なんだこれは。君は、本当にここの従業員なのか？

従 A 凄え歯茎。

森野 何なんださつきから客に対して。

間。

森野 ……何かがおかしい。君？ 俺の言葉が聞こえてるか？ おーい！

おーい！

まじまじと森野の顔を見つめる従業員 A。

森野 聞こえてない。何なんだこれ。

従 A 何なんだこれ。

森野 俺がおかしいのか？

従 A めっちゃ愛嬌あるなあ。

森野 絶対何か違うものに見えてるだろ。 え？ 何？ 何か珍しい系

だろ？

従 A お座り！

森野 犬？

従 A お座り！

森野 え？ 犬なのか？

従 A ……ダメか。犬より賢いはずなのになあ。

森野 犬じゃないのか。だよな。犬が電話取ったら、かしこ、では済まないもんな。

従 A 言い方か。……なあ、自分ちよっと座ってみよっか？

森野 あの、聞こえないと思うから言うけど、……君はバカだろ。

従 A へーくしょん！ また誰か、俺のこと噂してるな。

森野 勘はいいんだな……。くしゃみして、噂しているな、なんて現実で言う人初めてみたけどな。……ああ、もうどうしたらいいんだ……。

森野、しゃがむ。従Aガッツポーズ。

森野 違ーう！

従A かしこっ。もしかして、俺の言葉通じてんの？ 何が言いたいの？
言ってみ？

森野 俺のこと一体何に見えるんだ？ 医者を呼んでくれないか！
従A ハハ。キヤツキヤツキヤツキヤツ言うてるわ。

森野 おちよくってんのか？

従業員B登場。

従B 向こうも食事終わったから布団……。

Aと同じように森野を見て驚く。三人ストップモーション。

声 (ピンポンパンポン) 従業員Bにも、目の前の男がオランウータン

に見えています。ただし、従業員Bは男の言葉は普通に聞こえます。

動き出す。

従業員B　うわ！　ええ？

従業員A　タダヒコ、いいとこに来た。

従業員B　何で？

従業員A　ありえねえだろ。ありえねえだろ。

森野　ありえないのは君の言動だろ。

従業員B　うわあ！

森野　は？

従業員B　喋った！　今喋った！　何これ！?

森野　え？　わかるのか？　俺の言葉がわかるのか？

従業員B　え？　俺の言葉わかるの？

森野　こっちが聞いてるんだ。

従B 何なんだよこのオランウータン！
森野 オランウータンか。

凹む森野。

従A 何で会話できるんだよ。
従B え？ 喋ってるじゃん。
従A いやいやいやいや。
従B いやマジだって。
従A ウホウホってしか言ってないだろ。
従B ええ？
従A 質問してみてください。
従B 質問？
従A 何でもいいから。
従B うん。どうして人間の言葉がわかるようになったの？

森野 逆だよ。俺は人間だ。もう少し接客の仕方があるでしょ。

従B え？

従A 何て？

従B 俺は人間だ。もう少しで。

森野 違う！

従A 進化待ち？

「で」って何だ「で」って！

森野 早く人間になりたいの？ 進化したいの？ あそう。

従A ちゃんと通訳してくれよ。普通の人間だって。

森野 超えられない壁もあるって教えた方が……。

従A 普通の人間だって。

従B ええ？ 失礼だけど、凄いオランウータンに似てるだけか聞いて

みて。

森野 本当に失礼だな。違うよ。

従A 聞いてみて。

従B 違うって言ってる。

森野 この部屋泊まってから急にこうなったんだ。こっちの人には言葉

も通じないし。電話も伝わらないし。何とかしてくれよ。君しか
いないんだ。お兄さんだけが頼りなんだよ！

従A 何て？

従B いや……、ウホウホって。

森野 面倒臭がるなよ！ 聞こえてるだろ！

従B あーダメだ。もうウホウホってしか聞こえないや。

森野 嘘だ！ 聞こえてただろ！

従B あれー？ 嘘？ さっきまで聞こえてたのにな。

森野 釘落ちてる。

従B え？

森野 聞こえてるじゃないか！ 面倒臭がらずに何とかしてくれよ。

従B いや、何とかって言われても、ただのバイトなのにそんな……。

従A また聞こえるようになったのか？ そうなのか？

森野　　そっちの彼にちよつと席外してくれって言つてよ。

従A、バナナを見せる。

森野　　って何で持ってるんだよ！

従A　　ここでバイトしたって言ってるのか？

従B　　この部屋のお客さんみたい。理由はわからないけど、突然オランウータンになったんだって。

森野　　その財布の中に俺の免許証が入ってる。

財布から免許証を出す。

森野　　そこに写ってるのが本当の俺だ。

従B　　……名前は？

森野　　モリノヒトシ。

従B　　どうしよ。病院行きましようか。

森野 そうだな。

従A 病院行くの？

従B うん。

従A ちよっと待ってて。

従B え？

従A すぐ戻って来るから。

従B おい。

従A、出て行く。

森野 あの、お風呂お湯出ないんですけど。

従B ああ、はい。

近くの部屋の宿泊客が集まってきて、写メールを撮るために携帯を構えている。

客A もうちよっと近づいて。

客B　　こう？

森野　　ちよっと、追い出してもらえますか？

従B　　あの、すいません。こちらのお客様のご迷惑になるんで、お部屋に戻ってもらえますか。

客A　　何だよ、オランウータンのくせに。

客B　　行こ。

客、帰る。

森野　　くせにつて……。

従A、戻って来る。

従A　　こっちです。(従Bに)隣の部屋、お医者さん泊ってたから。

医者、登場。

従B おお。

医者 あらら、ホンマやね。近づいても平気？

従B 多分。

医者 ちょっと診てみますね。お名前は？

森野の下脛を引っ張ったりして、診察する医者。

従B モリノヒトシさんです。

医者 あそう。……森野さん？

森野 はい。

医者 何処か痛いところあるかな？

森野 腰が。

従B 腰が。

医者 成程。ああ、まあ一時的なものでしょう。これくらいやったら、

別に病院まで行かんでも、二、三日安静にしてたら元通り人間の姿に戻れると思うか？

森野
え？

医者
自分、客がオランウータンみたいになってるって言うてたけど、百パーオランウータンやん。

従A
全くその通りで。

従B
でも言葉通じるし……。もしかしたら、映画の転校生みたいになぶつかって入れ替わったのかも。逆の、人の姿した方探したら……。

医者
君、診たるわ。ウチの部屋おいで。

従B
……え？

従A
タダヒコ、診てもらえ。

従B
……診てもらえますか。

医者
その代わり宿泊料つけてや。

従B
えー、まじっすかあ。

三人、出て行く。

森野

待てよ！

病院！

お風呂！

布団！

釘！

取り残される森野。終わり。